

平成31年度 自己評価報告書

学校法人 平成国際学園

長崎医療こども専門学校

1. はじめに

本校は、自己評価を組織的・体系的に実施し、学校の質の向上及び教育力の向上に取り組んでいます。

本年度より、教職員による自己評価に加え、学科・部署ごとの重点目標の設定と達成状況の確認、学生による授業評価及び学校満足度評価を行い、保護者ならびに卒業生からも評価をすることといたしました。

それらの評価の結果から学校経営上の問題点を抽出し、改善に取り組み、学生及び教職員の満足度を高め、よりよい教育サービスを提供して、即戦力となりうる学生を社会に輩出して参ります。

2. 各評価項目について

本年度は以下の区分に分けて評価を実施しました。

学校の教育目標

(1) 教育方針

- 一 長崎の人材を長崎の当校で育成し、主に長崎で就業させる
- 二 優れた人材を育成し地域に貢献する
- 三 医療・福祉機関として、「おもてなし」の心を持った学生を育成する

(2) 教育目標

- 一 人間力の向上
- 二 国家資格・各種資格の取得
- 三 専門的な知識・技術の習得

本年度の重点目標

(1) 学校全体の重点目標

教育方針及び教育目標に基づき、より職業教育の充実を実践し、次の学習効果を目指す。

- ①学生全員の就職及び進学の実現に努める。
- ②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。
- ③学生の中途退学者の低減に努める。

(2) 各学科・部署ごとの重点目標

自己評価

- (1) 教職員による自己評価
- (2) 学生からの授業評価
- (3) 学生の学校満足度評価
- (4) 卒業生の卒後評価
- (5) 保護者に対するアンケート調査

3. 評価結果について

(1) 重点目標の達成状況

学校全体の重点目標について、各学科・部署ごとに目標を数値化し、その達成状況を確認しました。

①学生全員の就職及び進学の実現に努める。

柔道整復師科は国家試験の発表の後で就職活動に取り組む学生もいるため、現段階の就職内定者数は少ないが、他の学科においてはほぼ全員の就職内定をいただいています。

②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。

柔道整復師科と介護福祉科の国家試験の合格発表は3月下旬であるため、現段階では正確な合格率は出ていません。他の学科については目標に達することができなかった学科はありましたが、保育こども学科のように100%を達成している学科もあります。

なお、日本語科は本年度より日本語能力試験4級の合格率の向上を目標とし、合格率74.5%を達成することが出来た。

国際ビジネス科については、本年度より日本企業への就職を目標として掲げ、就職希望者15名中、11名に就職内定をいただくことができました。

③学生の中途退学者の低減に努める。

ほとんどの学科が中途退学者ゼロを目標に掲げましたが、各学科とも数名の退学者が出ました。しかし、日本人学科は医療ビジネス科を除き、退学者は前年度を下回っていました。医療ビジネス科は、昨年度はゼロ名でしたが、本年度は2名が退学したため、本年度の反省点を活かし、来年度は退学者を出さないようにします。

また、留学生学科の退学者数は多いですが、進路変更による進学や就職、家族滞在への切り替えや帰国した学生がほとんどです。

(2) 自己評価

①教職員による自己評価

昨年度に引き続き、専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月 文部科学省 生涯学習政策局)の評価項目に基づいて教職員による自己評価を行いました。

昨年と同様に問題点として捉える基準を7割(2.8ポイント)に設定し、それを下回る評価項目に関して改善に取り組んでいきます。

- ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化
されているか、また有効に機能しているか 2.64
- ・人事、給与に関する規程等は整備されているか 2.59
- ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備
されているか 2.73

| | |
|---|-------|
| ・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 2. 75 |
| ・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 2. 68 |
| ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 2. 75 |
| ・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 2. 73 |
| ・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 2. 78 |
| ・ 卒業生への支援体制はあるか | 2. 64 |
| ・ 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか | 2. 45 |
| ・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 2. 71 |
| ・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 2. 59 |
| ・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 2. 69 |
| ・ 財務情報公開の体制整備はできているか | 2. 72 |
| ・ 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか | 2. 61 |

②学生からの授業評価

各学科のクラスごとに全教科についての授業評価を行いました。

評価方法は、学生自身が理解度や授業への取り組み方を評価する方法と、授業の進め方や担当教員の授業方法について評価する方法で行っています。評価は5段階評価です。

具体的には、次の項目を考慮して評価点をつけるようにしています。

○学生自身の評価

- ・ 授業に目標を立てて臨んだか
- ・ 予習と復習をしたか
- ・ 授業中に質問をしたか
- ・ 疑問を解決する努力をしたか
- ・ 資格や検定試験などの結果は満足できたか

○授業評価

- ・ 学習目的やテーマは明確だったか
- ・ 授業は理解しやすかったか
- ・ 授業方法（講義・演習・実技など）は適切だったか
- ・ 宿題などの課題の内容と量は適切だったか
- ・ 授業の進め方は先生の一方的な講義ではなかったか
- ・ 教員は熱意を持って授業をしたか
- ・ 授業全体に対する充実感や満足感があったか

全学科を通じて、評価点には次のような傾向がありました。

- ・実技や演習については評価点が高い（学生の興味が高い）。
- ・学外での実習については本人の評価点が低い。
- ・同じ分野の授業を行っても、非常勤講師によって評価点のばらつきがある
- ・常勤教員の評価点は全体的に高かった。

本年度から取り組みましたので、評価点の指標となるものがないため、評価結果の活用方法は検討中ですが、他の専門学校の活用方法などを取り入れ、次年度以降につなげていきたいと考えています。

③学生の学校満足度評価

この評価は授業だけでなく、学校の施設や設備、学生支援等に関して満足をしているかどうかという評価です。学校の環境整備等に活用します。

- ・今年1年間の学業面や生活面の目標は達成できたかについて

| | |
|----------|-----|
| 達成できた | 52% |
| もう少しだった | 39% |
| 達成できなかった | 5% |
| 無回答 | 4% |

約半数の学生が目標を達成できたと感じており、約4割の学生がもう少しと感じていることから、全体的に学業面に対する努力と生活面に関する充実していると捉えられます。

達成できなかったと回答した学生には担任から個別に対応します。

- ・本校の施設や環境について良いと思われるものについての質問に対する回答は次の通りです（複数回答）。

| | |
|-------|-----|
| 校舎の場所 | 43% |
| 教室の環境 | 19% |
| 実習室 | 13% |
| トイレ | 7% |
| 非常用設備 | 4% |
| 実技設備等 | 13% |
| その他 | 1% |

長崎駅前という交通の利便性から、校舎の場所が良いと回答している学生が多いです。教室の環境、実習室、実技設備等についても満足している学生がいます。

ただし、トイレの個数が少ないという意見が出ており、トイレについては評価が低くなっています。

- ・本校の教育内容についての質問の回答は次の通りです（複数回答）。

| | |
|--------|-----|
| 国家試験等 | 20% |
| 担任制 | 32% |
| 授業の方法 | 19% |
| 実技実習時間 | 12% |

| | |
|------|----|
| 就職指導 | 7% |
| 就職実績 | 9% |
| その他 | 1% |

国家試験、担任制、授業の方法を合計すると71%です。現状の教育内容で満足している学生が多いですが、更に教育力の向上を図っていきます。

- ・今年1年間（卒業年次生は全学年）の満足度を5段階で評価した場合の評価割合は次の通りです。

| | |
|-----|-----|
| 評価5 | 22% |
| 評価4 | 45% |
| 評価3 | 29% |
| 評価2 | 3% |
| 評価1 | 1% |

この評価も本年度から取り組んでいるので評価の指標はありませんが、評価4以上の学生が65%いますので、これらの学生を更に満足させ、評価点3以下の学生が自分の努力に対して満足する結果が出せるように取り組んでいきます。

④卒業生の卒後評価

今回の卒後評価は、卒業後の離職率を調査することが第一の目的でしたが、調査から回収する期間が短かったこともあり回収率が低かったので、本報告書ではあくまでも参考としてご報告します。

また、来年度に向けても調査を継続し、来年度の自己評価として正式に報告します。

- ・卒後3年以内の在職率

| | |
|-----|-----|
| 1年後 | 92% |
| 2年後 | 57% |
| 3年後 | 57% |

- ・離職後に同系統の職種に転職した割合

| | |
|-----|-----|
| 1年後 | 0% |
| 2年後 | 83% |
| 3年後 | 50% |

- ・在職率と同系統の職種に転職した割合の合計

| | |
|-----|-----|
| 1年後 | 92% |
| 2年後 | 92% |
| 3年後 | 79% |

本校を卒業して就職した事業所を離職した後も同系統の職種で働いている学生が多く、本校で学んだ専門性が活かされているのではないかと考えられる。

⑤保護者に対するアンケート調査

○新入生保護者アンケート

- ・進学の際に本校を知ったきっかけは、ご子息（学生）からが最も多いですが、高校からという保護者も多く、高校の先生方が紹介していただいている人数も多いため、今後も高校と連携を深めていきます。
- ・本校以外に検討した学科がある保護者の方は、教育内容を比較している方が多く、今後も教育の質を高めていく必要があります。
- ・最終的に本校に入学を決めた理由については、体験入学に参加して決めたという方が多いので、体験入学での情報の配信や保護者の方からの相談を聞くことが重要です。また、立地条件、教育内容についても人数が多い結果となっています。
- ・本校に期待することについては、地元就職や資格の取得など様々あり、保護者の方の期待に応える必要があります。
- ・学生を指導する際に学校側が

留意した方が良いことについては、家庭環境や心に悩みを持った学生がおり、入学時に本校としても把握したいためアンケートを行いました。

子供の精神的な面や持病や過去の怪我に関すること、親元を離れて学習させることの不安などを書いていただき、学生指導をする上で、有用な情報を得ることができました。

○在校生保護者アンケート

- ・本校に入学した理由に関しては、在校生についても体験入学での説明が良かったという人数が最も多く、立地条件、教育内容、高校や知人からという方もいらっしゃいました。教育の質を高め、広報で情報の配信を行っていくことが重要と考えられます。
- ・本校の教育内容については様々な意見をいただき、教育を評価していただいている保護者の方だけでなく、教育内容についてご指摘をいただいている保護者の方もおり、教育内容の改善すべき点があることが分かりました。
- ・本校の学生支援については、奨学金や特待生、学費分割制度が約半数おられましたが、学生の悩みや相談を聞いてくれるという回答は約2割だけでしたので、担任が学生の指導をもっと細かく行う必要があると捉えています。
- ・学生を指導する際に学校側が留意した方が良いことについては、子供の性格や体調面に注意していただきたいという意見や学校に対する要望も多く、ひとりひとりの学生に対し、担任が向き合って指導していくべきと捉えています。
- ・就職希望先は、長崎県内が9割で、そのうち自宅からの通勤を希望する保護者が約7割いらっしゃいます。長崎県内の他の専門学校と同様に、

本校も県内志向が高い結果となっています。

- ・その他のご意見として、教育内容や学生支援について多くのご意見をいただきましたので、教育内容の改善も含め、保護者の意見を取り入れながら学校の質を高めていきたいと考えています。

4. 教職員・学生・保護者・卒業生からの意見・要望等への改善について

教職員・学生・保護者・卒業生の各々からの意見・要望等が多くありましたので、来年度の学校運営に向けて、可能な限り改善を図っていきます。

5. 次年度の自己評価について

次年度の自己評価は、PDCAサイクルに基づき、組織的・計画的に行います。改善すべき事項や新たに実施を検討している評価内容は次のとおりです。

- (1) 教職員による自己評価
- (2) 各教職員及び各学科・部署ごとの重点目標の設定と評価
- (3) 学生からの授業評価
- (4) 学生の学校満足度評価
- (5) 卒業生の卒後評価
- (6) 保護者に対するアンケート調査

6. さいごに

本年度の自己評価は、教職員による自己評価だけでなく、学生、卒業生、保護者からの評価も取り入れ、多角的に学校を評価し、意見や要望を把握することが出来ました。初めて取り組んだ事項は、過去の評価点がないため、善し悪しの判断が付けづらかったですが、今後も継続して取り組み、自己評価を計画的・組織的に行って参ります。

本年度の自己評価の結果を学校関係者評価委員会にて審議していただき、学校外部の皆さま方からのご意見をより多く取り入れる事により、学校の資の向上、教育力の向上に取り組んで参りたいと考えている次第です。

以 上